農家のための最新情報

あぐり最前線

土壌分析をしましょう！ ―コスト低減に向けて―

JAでは、肥料の過剰施肥による無駄をなくしコスト低減に繋げるため、土壌分析を毎月実施しています。分析を希望される方は、約1合程度(200g)を採土し、必ず土壌を乾燥させてから袋に入れ、住所・氏名・TELと、水稲・野菜(キャベツ、ハクサイ…等)・果樹(ミカン、カキ…等)など品目名を記入して、11月13日(金)までに各支店へご持参ください。分析結果は12月中旬頃にご連絡致します。

水稲

※防除薬剤のあとの数字は、安全使用基準で、(収穫何日前まで使用可能か／通算使用可能回数)を表しています。農薬は農薬安全使用基準を守り、正しく適期に防除してください。

例）表記が（14日／2回）の場合…収穫14日前までに2回使用可能

今年の生育期間中の気温は、7月は雨や曇りの日が多く、日照時間は少なく気温は低くなりましたが、8月に入ると天候も回復し暑い日が続きましたので、生育は順調に推移しました。降水量については、7月は梅雨前線の停滞により多く、8月は少なく、9月に入ると秋雨前線の影響により多くなりました。

生育初期の日照不足により生育不良が懸念されましたが、影響もあまりなく、幼穂形成期はいずれの品種も平年並でしたが、出穂期は、8月の高温の影響で1～2日程度早くなりました。

8月中旬以降、トビイロウンカの発生が多く、早生から晩生のすべての品種で被害（坪枯れ）が多く見られました。

●未熟粒・胴割粒

未熟粒は粒の全体もしくは一部分が乳白色になったもので、胴割粒は玄米の内部に亀裂が生じる現象です。両者に共通する原因の一つとして、登熟期以降の気温（特に夜温）が高いことが挙げられます。

次年度の対策

①土作り

作土を深くして根が働きやすい環境を作るとともに、生育後半まで根の活力を維持するために重要です。

②適正施肥

登熟期間中の葉色が高く維持されると発生は少なくなります。

③出穂期以降の水温を下げる

出穂以降、夕方以降の水の入れ替えや、かけ流しなどで水温を下げると効果的です。

④登熟時の早期落水防止

落水時期は可能な限り遅らせ、収穫時に田面を極端に乾かしすぎないようにしましょう。

◎玄米の品質改善に土づくり資材を投入しましょう。

・農力アップ（100kg／10a　*秋落ち水田では140kg／10a）

茎葉の強化、根の保護、保肥力の向上が期待でき、水稲の安定生産、品質向上に役立ちます。

キャベツ

●播種

▽11月1日～12月5日　※SE

●定植

▽11月1日～10日　※春のかほりSP③

●病害虫防除（本田防除）

▽11月上旬　※星岬・恋岬SP

・フェニックス(顆)　2000倍（前日／3回）

・コルト(顆)　4000倍（前日／3回）

・ファンタジスタ(顆)　2000倍（3日／3回）

▽11月中旬　※春のかほりSP①・めぐみ

▽11月下旬　※春のかほりSP②

・グレーシア(乳)　2000倍（7日／2回）

・ウララDF　2000倍（前日／2回）

・ファンタジスタ(顆)　2000倍（3日／3回）

◎菌核病

結球期以降に発生し、下葉から灰褐色に変色しやがて腐敗します。発病した結球葉をはがすと、内部に白色綿状のカビを生じ、ネズミの糞のような菌核を形成します。9～11月の間に降雨が続くと発生を助長しますので予防を心掛けてください。

▽予防

・ロブラール(水)　1000倍（7日／4回）

・ファンタジスタ(顆)　2000倍（3日／3回）

・シグナムWDG　1500倍（7日／2回）

▽発生初期

・アミスター20(フ)　2000倍（7日／4回）

・カンタスDF　1500倍（7日／2回）

また、菌核は土壌中で越冬するため、被害株は菌核を形成しないうちに圃場から持ち出し処分してください。

●追肥

▽定植活着後　※春のかほりSP③

市場出荷休日カレンダー（野菜・果樹）

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3 文化の日	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23 勤労感謝の日	24	25	26	27	28
29	30					

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27 重量出荷終了日	28 数量出荷終了日	29	30	31		

✕は出荷できない日　　は日曜・祝日等

11月のアナタの運勢 ～モナ・カサンドラ～

・ニューパワーユーキ262（60kg／10ａ）

●収穫

▽11月1日～12月15日　※星岬

ハクサイ

●病害虫防除（本田防除）

▽11月上旬

※11月どり品種

・アクセル（フ）　1000倍（前日／3回）

・トランスフォーム（フ）　2000倍（3日／3回）

・バリダシン（液）5　500倍（3日／3回）

※12月どり品種

・プレオ（フ）　1000倍（7日／2回）

・コルト（顆）　4000倍（3日／3回）

・スターナ（水）　1000倍（7日／3回）

▽年明けどり品種・防寒

※11月上旬

・グレーシア（乳）　2000倍（7日／2回）

・ウララＤＦ　2000倍（前日／2回）

・キノンドー（フ）　1000倍（30日／5回）

※11月下旬

・フェニックス（顆）　2000倍（前日／3回）

・コルト（顆）　4000倍（3日／3回）

・シグナムＷＤＧ　1500倍（7日／3回）

●追肥

定植活着後（約2週間後）に、ニューパワーユーキ262（120kg／10ａ）、および結球開始期にニューパワーユーキ262（80kg／10ａ）を施用しましょう。

●生理障害対策

◎石灰欠乏（アンコ）

植物体へのカルシウム吸収量が不足することで発生します。主な原因は、

（1）土壌中のカルシウム不足

（2）土壌の乾燥

（3）窒素過多

（4）過湿等で根が障害を受けた

場合等が挙げられます。特に土壌の乾燥が影響しやすいため、適宜灌水とパフォームCa（500倍）の葉面散布を行ってください。

●病害虫防除

◎べと病

晩秋および春の気温の低い多湿期に発生が多く、結球後期、球が老化すると葉柄部に黒いシミおよび斑点（組織内べと）が発生します。老化させず、早めの収穫を心掛けてください。

▽予防

・ランマン（フ）　2000倍（3日／4回）

▽発生初期

・プロポーズ（顆）　1000倍（7日／2回）

・アミスター20（フ）　2000倍（7日／4回）

＊ハクサイは、ＴＰＮを含む農薬の使用回数が合計2回までです。プロポーズ（顆）とダコニール1000はＴＰＮですので、使用回数に注意してください。

ブロッコリー

●定植

▽11月20日～12月10日　※グランドーム

●病害虫防除（本田防除）

▽11月中旬　※アーサー

・アクセル（フ）　1000倍（前日／2回）

・コルト（顆）　4000倍（前日／3回）

▽11月中旬　※クリア（10月中旬定植）

・グレーシア（乳）　2000倍（7日／2回）

・ウララＤＦ　2000倍（前日／2回）

・シグナムＷＤＧ　1500倍（7日／2回）

▽11月下旬　※クリア▽9月下旬定植

・アクセル（フ）　1000倍（前日／2回）

・コルト（顆）　4000倍（前日／3回）

・ナレート（水）　1000倍（14日／2回）

●追肥

・ニューパワーユーキ262（80kg／10ａ）

定植活着後に施用しましょう。追肥と同時に土寄せを行ってください。

●収穫

▽11月1日～30日　※トップスター

▽11月15日～12月15日　※ピクセル

ダイコン

今月から収穫が始まります。収穫時期を逃さず、若どりを心掛けてください。なお、病害虫に注意してください。

●病害虫防除

◎黒斑細菌病

気温が高く、降雨の多いときに多発しています。また、発生すると防除しにくいので予防散布に重点をおいてください。なお、発病は肥料切れで助長されます。

▽予防

・カセット（水）　1000倍（14日／3回）

▽発病初期

・マイコシールド　750～1000倍（14日／3回）

◎白さび病（ワッカ症）

11月上旬からの降雨の多い低温の年に発生が多いです。特に、夜が低温で翌朝気温が上昇する場合に注意が必要です。多湿になりやすい密植を避ける、予防散布の徹底等で対策します。

・ランマン（フ）　2000倍（3日／3回）

＊地際部まで十分濡れるように散布することが重要です。

◎アブラムシ類

秋期に乾燥すると発生が多くなります。新葉付近に群棲することが多く、防除を怠ると生育不良になるばかりでなく、出荷物への混入や排泄物（甘露）に発生するすす病の原因となります。葉裏、葉の中心部に薬剤がかかるよう、丁寧な薬剤散布が必要です。

・ウララＤＦ　2000倍（前日／2回）

または

・モスピラン（顆）　2000～4000倍（14日／1回）

青ネギ

秋まきの作型が11月以降に収穫を迎えます。収穫期が近づくと徐々に水を切り、葉に青みを持たせるようにしてください。

●病害虫防除

◎コナガ

薬剤抵抗性が発達しやすく、異なる薬剤のローテーション防除が大切です。

・ディアナＳＣ　2500～5000倍（前日／2回）

・アニキ（乳）　1000～2000倍（3日／3回）

◎べと病・さび病

気温15℃前後で降雨が多いと発生しやすくなります。

・アミスター20（フ）　2000倍（3日／4回）

カキ

今月は富有柿の収穫が最盛期となります。

出荷基準を厳守して収穫し、果梗部は短く切り果実を傷つけないようにしてください。

●収穫のポイント

・果粉（果実表面の白い粉）はできるだけ落とさないようにしましょう。果粉は、新鮮さの度合いを表します。

・他の果実に傷をつけないため、果梗枝は完全に切り落としましょう。

・雨天の日の収穫等で果実が濡れている場合は、黒変果防止のため扇風機等で乾燥させてから出荷しましょう。

●施肥

・ニューわかやま味一ブリケットまたは、わかやま配合（140kg／10ａ程度）

果実生産で消耗した樹を回復させるため、また貯蔵養分を蓄えられるよう、落葉するまでに施用してください。

●病害虫防除

◎黒変果

黒変果は、着色始めの9月中下旬から成熟期にかけて増加します。発生が多く見られるのは、風通しが悪い・湿度が高い・日照時間が短い園地です。防止対策として、マルチの敷設・摘葉処理・雑草の刈り取りを行い、園内の湿度を下げることで地面を乾きやすくしましょう。

ミカン

極早生の収穫、出荷が始まりました。適期収穫を心掛け、丁寧かつ品質をよく吟味して収穫しましょう。

●品質向上対策

収穫期に雨が多いと浮皮果が助長されるため、水溶性カルシウム剤（バイカルティ）を引き続き散布してください。

果実の肥大に伴い、枝が下垂してきます。地面まで下垂した枝については、枝つり・枝支えを行いましょう。

●施肥

・ニューわかやま味一ブリケットまたは、わかやま配合（100kg／10ａを目安）

施用時期が遅れると肥効が悪くなるため、11月上旬には施用を終えてください。

●病害虫防除

○果実腐敗防止

収穫1週間前に散布することで予防効果を高めることができます。

・トップジンＭ（水）　2000倍（前日／5回）

または

・ベフラン（液25）　2000倍（前日／2回）

ウメ

落葉が始まり休眠期に入ります。今月は土作りと整枝・剪定を行いましょう。

●施肥（土壌改良）

・新ふりかけ堆肥ｅｃｏ（200kg／10ａ）

・苦土セルカフミン（120kg／10ａ）

●整枝・剪定

剪定作業が年明け以降にずれ込むと、蕾が大きく膨らみ、貯蔵養分が無駄に消耗されるため、年内に終わるよう計画的に作業を進めましょう。

●苗木の植え付け

落葉果樹の苗木の植え付けの適期は、11～12月です。老木樹及び不良品種の改植、受粉樹の不足園への補植を行いましょう。また、植え付け後は乾燥を防ぐため、敷き藁等を施用し灌水しましょう。

モモ

11月下旬頃から苗木の植え付けを行います。また、落葉を終えて少し経った樹から整枝・剪定を始めてください。

●苗木の植え付け

乾燥には比較的強いですが耐水性が弱いため、排水が良好で通気性の良い土壌を好みます。植え付けの前には、完熟堆肥等の土壌改良剤を投入するとともに、排水対策を行いましょう。また、風当たりの強い園では防風樹・防風ネット等の防風対策を行ってください。

川中島白桃など花粉のない品種では、受粉樹を混植する必要があります。

イチジク

気温が低下し、収穫は終盤を迎えます。

収穫後、園内に残っている葉や果実は病害虫の越冬場所となりますので、園外へ持ち出すか焼却しましょう。

●施肥

・ニューわかやま味一ブリケット（80kg／10ａ）

地温が10℃以下になる頃から根の活動が停止し、翌年3月頃まで休眠期に入ります。そのため、11月上旬までに施用してください。

適切な農薬散布を！

◎ラベルを確認しましょう。

◎ドリフト防止対策を徹底しましょう。

◎機器・用具等の洗浄や付着に注意。

◎使用状況は必ず記録を！

誓約書・防除記録は必ず提出しましょう。

農業者の皆さまへ

農作業を安全に！ 11月～12月は 特に注意

ご存じですか？　和歌山県内の農作業事故の実態

県内で労災保険の給付を受けるに至った農作業事故は
平成27～31年（令和元年）度の **5年間で250件発生**

★約６割が収穫期に発生

５～６月（うめ）と、11～12月（みかん）で144件発生しています。特に、忙しい年末の12月は要注意です。

★事故原因は『墜落・転落』と『転倒』

原因の７割以上が、脚立・樹木・傾斜地などからの墜落・転落や、作業中の転倒です。傾斜地の多い果樹園での作業は、特に注意が必要です。

県内においても９件の死亡事故が報告されています。

農作業の死亡事故は決して他人事ではありません。

県内では高い場所からの転落、熱中症などによる死亡事故が発生しています。重大な事故は、小さな事故の延長線上にあります。

特に高齢の方は、体力を過信せず、慎重な作業を心がけてください。

主な事故実例と事故防止のポイント

疲れのたまりやすい農繁期は、ちょっとした『焦り』や『気のゆるみ』が事故につながります。次のことに注意し、無事故で乗り切りましょう。

□作業計画はゆとりをもって。

□事前に準備と確認を。
・障害物は取り除く。機械を整備。

□作業は慎重に。
・収穫時は必ず手袋を着用。
・脚立を使用するときは、足場を確認、チェーンをかける。
・草刈り機を使用するときは、ゴーグル着用、ゴミ取りはエンジンを切ってから。
・段差や斜面では、特にゆっくり移動。

【主な事故実例】

●みかんの収穫作業中に
・枯れた枝につかまり、転落。
・草で足が滑り、胸を強打。

●かきやももの収穫作業で脚立を使用中に
・足を滑らせて、転落。
・脚立が傾いて、墜落。

●草刈り機を使用中に
・絡まった草を除こうとして親指をケガ。

●トラクターを使用中に
・段差を乗り越えようとして トラクターが横転し、圧迫死。

蟹座 6/22～7/22　全体運 ●明るい兆しが見えています。遊びに行く計画を練りましょう。人生を楽しむ気持ちが幸せの呼び水に。映画観賞吉。
健康運 ●テーピングで症状が改善。予防にも効果あり。　幸運を呼ぶ食べ物 ●リンゴ

11月・12月お申し込み　限定キャンペーン

耕運爪が 3割引!!

※納品は、お申し込みの翌月以降となります。
※ボルト、交換工賃別途。

詳細はお近くの営農センターまでお問い合わせください。

使用済廃プラスチック 回収のお知らせ

ご希望の方は最寄りの各支店・営農センターまたは営農生活部まで、事前に希望処理数量をお申し出ください。

◆回収日時
12月8日（火）7:00～10:00

◆費用
約34円～42円（税抜）※産業廃棄物処理法に基づく処理（kgあたり）

◆注意事項
①農ビ（塩化ビニール）と農ポリ（ポリ系ビニール）を回収します。
②農ビと農ポリは分別して回収しますので、分けて搬入してください。
③ウェーブロックなど糸入りビニールやマルチフィルム、劣化が進んだ（ボロボロの）ものは避けてください。
④丁寧にたたみ、最大10kg程度にそろえて十字に紐をかけてください。
⑤事前に申し込みのない場合は、回収できません。
⑥搬入は、午前10時までに行うようお願いします。

申し込み締め切り　11月24日（火）

詳細は、営農生活部 ☎473-9402までお問い合わせください。

UIターン就農相談フェア in 和歌山

県内で新たに農業を始めたいと考えている方を対象に、就農に関するさまざまな内容について相談をお受けします。先に新規就農された方の話を聞くことができる「新規就農セミナー」も同時に開催！　なお、本フェアは今回から事前登録制となりますので、県就農支援センターHPから所定の様式をダウンロードしていただき、お申込みください。

※申込期間【11月2日(月)～27日(金)】

場　所
和歌山県JAビル2階和ホールABC
（和歌山市美園町5−1−1）
※新規就農セミナーは2階2−A会議室

相談受付内容
・就農相談（研修、資金、農地、雇用就農など）
・農林大学校進学相談
・林業就業相談
・移住相談
・一部の市町担当者による各市町の支援や受入についての相談

日　時
12月13日(日)10:00～15:00
※新規就農セミナーは1回目11:00～12:00
2回目13:00～14:00

新規就農セミナー
・セミナー講師による就農体験談の発表と意見交換会

※新型コロナウイルス感染拡大の状況などにより、中止または内容を変更する場合がございます。開催日前にHPなどでご確認ください。

お問い合わせは、和歌山県農林大学校就農支援センターまで
TEL　0738-23-3488　　Eメール　e0716011@pref.wakayama.lg.jp
HP　https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/071601/sintyakujouhou/index.html

双子座 5/21～6/21　全体運 ●部屋の中を整理整頓すると頭の中もすっきり。迷ったら掃除をするのがお勧めです。野菜たっぷりの食事で開運。
健康運 ●サウナや岩盤浴でじんわり汗をかいて。　幸運を呼ぶ食べ物 ●ホウレンソウ